

大館市教育委員会会議録

日 時 令和5年8月23日（水）
午後3時30分
場 所 大館市立長木公民館
第1，2研修室

大館市教育委員会

大館市教育委員会会議録

1 開会の日時 及び場所	日時 場所	令和5年8月23日(水) 大館市立長木公民館	午後3時30分 第1, 2研修室
2 出席委員の氏名			
教育長職務代理者	山田和人	委員	工藤啓子
委員	根田穂美子	委員	小笠原正卓
3 欠席委員の氏名			
4 委員以外の出席者職氏名 (なし)			
5 出席した職員の職氏名			
教育長	高橋善之	学校教育課長補佐	工藤貴胤
教育次長	成田浩司	学校教育課長補佐	北林香子
教育監	長岐公二	教育研究所副主幹	山本多鶴子
教育総務課長	小松原功秀	生涯学習課長補佐	羽沢秀則
学校教育課長	鈴木明	中央公民館長	外館志
教育研究所長	米澤貴子	歴史文化課長補佐	篠村朋子
生涯学習課長	糸屋みさえ	教育総務課総務係長	柳谷真希
歴史文化課長	小松工		
教育総務課長補佐	宮崎史人		
6 会議録署名委員 教育長・山田委員			
7 会議書記 教育総務課 総務係長 柳谷 真希			
8 教育長報告			
(1)	常陸大宮市との教育交流について		
(2)	ALTの新規任用について		
(3)	令和5年度大館市20歳を祝う会について		
(4)	第33回大館市生涯学習フェスティバルについて		
9 議事			
協議第12号	大館市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例案		
協議第13号	令和5年度大館市一般会計補正予算(第7号)案		
10 その他			
(口頭報告)	大館ふるさとキャリア教育作品コンクールについて		
(口頭報告)	全国学力学習状況調査結果について		
次回 9月27日(水) 中央公民館 多目的室			

教育長が教育委員会会議に報告する事項

令和5年8月23日

担当課（学校教育課）

報告事項	報告内容
<p>(1)常陸大宮市との教育交流について</p>	<p>7月31日から8月2日までの日程で、城南小学校の6年生12名と教職員など引率者3名が友好都市協定を締結している常陸大宮市を訪問し、常陸大宮市立大宮小学校の児童と交流しました。</p> <p>常陸大宮市との交流事業では、お互いの市の小学生を隔年で派遣していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い2年間中止となっていたもので、昨年度は3年ぶりに大宮小学校から5年生10名の訪問を受け入れ、常陸大宮市への訪問は4年ぶりとなりました。</p> <p>今回は、出発前にオンラインで江戸時代からつながる両市の魅力や学校を紹介して、お互いの住む地域を理解し合い、あらかじめ両校の顔合わせを済ませてから常陸大宮市を訪問しました。</p> <p>現地では、大宮小学校の5年生12名と記念品を交換し、一緒に伝統工芸の西ノ内和紙の紙すきやカヌー体験をしながら交流を深めることができました。</p> <p>帰りの朝には大宮小学校の皆さんに見送られ、最後まで温かいおもてなしを受け、心に残る貴重な交流となりました。</p> <p style="text-align: center;"><城南小学校6年生12名と大宮小学校5年生12名></p> 

担当課（学校教育課）

報 告 事 項	報 告 内 容
(2)ALTの新規任用について	大館市へ新たに任用となるALTが決まりましたので報告します。

報 告 事 項	報 告 内 容																								
<p>(3) 令和5年度大館市 20歳を祝う会について</p>	<p>8月15日、ほくしか鹿鳴ホールにおいて、20歳を祝う会が盛大に行われました。(会場参加、オンライン参加)</p> <p>1. 対象者(平成12年度生まれ)596人 出席者 408人(出席率68.5%) 過去5年間の対象者・出席者数の推移</p> <table border="1" data-bbox="600 719 1417 1014"> <thead> <tr> <th></th> <th>対象者</th> <th>出席者(出席率)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>674人</td> <td>490人(72.7%)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>674人</td> <td>507人(75.2%)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>671人</td> <td>15人(2.2%)</td> <td>無観客</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>634人</td> <td>7人(1.1%)</td> <td>無観客</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>627人</td> <td>348人(55.5%)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 出席者代表から 「未熟ではあるが、日々勉強し、地域の方々への恩返しをするとともに、自らの成長へつなげていきたい」と決意が述べられました。</p> <p>3. 企業・団体からの協賛 全市を挙げて祝うイベントとして位置付け、市内企業・団体38社からご協力いただき、パンフレットへの応援メッセージ掲載などに協賛していただきました。</p> <p>4. ハチ公生誕100年事業との連携 今年はハチ公生誕100年にあたることから、ふるさと大館に思いを馳せてほしいとの気持ちを込めて、HACHI100プロジェクトから、クリアファイルなどオリジナルグッズを贈呈しました。</p> <p>5. 式典後のイベント(実行委員会主催) 実行委員会主催の抽選会が行われ、当選した出席者が壇上で、これからの抱負や中学時代の思い出を語り、会場に笑顔があふれていました。</p>		対象者	出席者(出席率)	備考	H30	674人	490人(72.7%)		R1	674人	507人(75.2%)		R2	671人	15人(2.2%)	無観客	R3	634人	7人(1.1%)	無観客	R4	627人	348人(55.5%)	
	対象者	出席者(出席率)	備考																						
H30	674人	490人(72.7%)																							
R1	674人	507人(75.2%)																							
R2	671人	15人(2.2%)	無観客																						
R3	634人	7人(1.1%)	無観客																						
R4	627人	348人(55.5%)																							

報 告 事 項	報 告 内 容																								
<p>(4) 第33回大館市生涯学習フェスティバルについて</p>	<p>第33回大館市生涯学習フェスティバル『まなびピア2023 in おおだて』を次のとおり開催します。</p> <p>1. 趣 旨</p> <p>広く市民に対し、生涯学習の実践活動発表の場と生涯学習を理解する機会を提供することにより、市民一人ひとりの生涯学習への意欲を高め、大館市における生涯学習の一層の進展を図る。</p> <p>過去5年間の事業数・来場者数の推移</p> <table border="1" data-bbox="587 913 1431 1256"> <thead> <tr> <th></th> <th>事業数</th> <th>来場者数</th> <th>うち中央公民館会場 (メイン開催日)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>40</td> <td>13,388人</td> <td>2,043人</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>41</td> <td>11,350人</td> <td>2,435人</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>28</td> <td>5,858人</td> <td>2,000人</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>31</td> <td>5,081人</td> <td>2,112人</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>36</td> <td>8,250人</td> <td>1,748人</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 期 日</p> <p>令和5年9月～10月（生涯学習強調月間）</p> <p>3. メイン開催日</p> <p>令和5年9月23日（土）、24日（日）</p> <p>4. 事 業</p> <p>協賛事業を含め33事業を予定</p>		事業数	来場者数	うち中央公民館会場 (メイン開催日)	H30	40	13,388人	2,043人	R1	41	11,350人	2,435人	R2	28	5,858人	2,000人	R3	31	5,081人	2,112人	R4	36	8,250人	1,748人
	事業数	来場者数	うち中央公民館会場 (メイン開催日)																						
H30	40	13,388人	2,043人																						
R1	41	11,350人	2,435人																						
R2	28	5,858人	2,000人																						
R3	31	5,081人	2,112人																						
R4	36	8,250人	1,748人																						

議 事 の 経 過	
	開会 午後3時30分
教育長	<p>ただ今より教育委員会会議を始めます。 会議録署名委員については、私と山田委員にお願いします。</p> <p>会議録についていかがだったでしょうか。</p> <p>(「異議なし」の声あり)</p> <p>それでは、承認とさせていただきます。 では、4の教育長の報告事項(1)をお願いします。</p>
各課長	<p>(「(1)常陸大宮市との教育交流について」 「(2)ALTの新規任用について」 「(3)令和5年度大館市20歳を祝う会について」 「(4)第33回大館市生涯学習フェスティバルについて」を、資料により報告)</p>
教育長	<p>ご意見、ご質問はございませんか。</p>
委員	<p>質問ではないのですが、常陸大宮市との教育の交流について。 7、8年ぐらいなるのでしょうか。ずいぶん長く交流していたと思ったのですが、今この報告の内容を見ても、子どもたちがお互いの地域の歴史や文化を学んで、交流して、新しい発見や気付きを持って、今後も交流の輪が広がっていければいいなと思っております。今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
教育長	<p>子どもたちの交流についての報告ではありますが、実は先生方の交流も行っておりまして、特に今、常陸大宮市の教育長が非常に大館に親しみを持っておりまして、今年秋の「大館市教育研究会」に合わせて先生方もおいでになって授業を見ろという、そのような幅広交流になっておりますので、大事にしていきなと思っております。</p>
委員	<p>もしかすると私の記憶違いといひますが、失念していたことになるのかもしれませんが、この5年生と6年生という学年の違いについてちょっとお聞きしたいなと思ひたのですが、なぜ替わったのかということをお教へていただきたいなと思ひます。</p>
学校教育課長	<p>大館市からは6年生を対象としていて、向こうからは5年生が、昨年度も5年生で希望がありました。 先ほど教育長から説明がありました、友好都市協定の締結が平成27年</p>

	<p>にありましたが、実際に行政の交流が始まったのが平成13年からと言われております。</p> <p>一番最初になぜ始まったかという、平成9年に当時城南小学校3年の児童が小学校周辺の町名に関心を持って調べたところ、旧大宮町の初代大館上代の小場氏が佐竹氏とともに秋田へ移ってきたと、そして小場氏は大館周辺の土地に自分の故郷の地名である部垂町、長倉、赤館、宗福寺などをつけたということ調べて、その小学生が当時の大宮町を訪問し、そのことが交流が始まるきっかけとなったという記録となっております。</p> <p>なぜ常陸大宮市からは5年生でこちらからは6年生なのかということは、現在までそこまで調べておりません。</p>
委員	<p>これは、来年、この5年生の子たちが6年生になってやってくるというのではないのですか。</p>
教育長	<p>いや、今後もこちらからは6年生が、常陸大宮市からは5年生で変わらず、それについては、多分誰も分からないと思いますが、おそらく、常陸大宮市もいろいろな教育的事情や狙い、そういうのがあるのだと思います。</p> <p>実際、1学年違っていても交流としては非常に仲良くやっておりますし、学年が違うから違和感あるとかそういうことではないと思います。</p>
委員	<p>「部垂町」という地名が常陸大宮市にあって、同じ地名があるということで小学生の女の子が調べられたということでしたよね。その小学生が調べなければ、こういう交流がなかったかもしれませんし、ありがたいことですよ。よく気がついてくれたと思います。</p>
教育長	<p>教育の交流だけでなく、歴史文化課でも資料の交換といった交流がありますね。</p>
歴史文化課長	<p>市史編さんの資料をいただきました。こちらの資料も向こうにお貸ししたり、6月に「佐竹一族と中世の常陸大宮」という企画展が常陸大宮市で開催されたときに、大館市郷土博物館に収蔵している佐竹家の関連資料や、部垂町の神社を管理している方がお持ちの和歌を書いた巻物を貸したりといった物の交流を行っております。</p>
教育長	<p>非常に望ましいことだと思います。</p>
委員	<p>20歳を祝う会に参加させていただきました。</p> <p>昨年度から従前通りの形で開催できるようになって、出席率も上がってきているとのこと、大変喜ばしいなと思っています。式が大変厳粛に行われて、代表の挨拶も含めて大変良いセレモニーだったと思っています。特に、背後にいる人たちの気配からですが、市長さんのお挨拶のときに会場の空気が一変したような気がしました。自分の生まれ育ったふるさとの首長さんの</p>

	<p>話を真剣に聞く若者たちがいる、それが大館の若者たちだということで、大変誇らしいし感激しました。この人たちはコロナに翻弄された人たちだと思うのですが、この節目にいろいろ見つめ直して、さらに良い人生を歩んでほしいなと改めて願ったところであります。</p> <p>運営の方も本当にお疲れさまでした。</p>
委員	<p>先日は、ご招待いただきありがとうございました。</p> <p>本当に今、委員も話されましたが、「人生の夢を見るのではなく、夢を生きよう」という市長のお話を子どもたちは非常に真剣に聞かれていたと思います。その言葉一つひとつが心に入ってくるような非常に分かりやすい言葉で伝えられて、大変よかったなと思いました。</p> <p>恩師の先生からの「感謝の心を忘れないで欲しい」ということに対して、最後の出席者代表の挨拶の中にも今このように開催してくれたことに対する感謝の気持ちを述べられていましたし、非常に気持ちの持ち方が謙虚で、しかも前向きで、感心いたしました。</p> <p>それから、昨年度から企業団体からの協賛を始められて、これは本当にいいと思います。企業の方も自分の会社をPRできるし、また参加する方々もどのような企業があって自分たちを応援してくれているのかということが目に見えて、非常に良い企画ですので、もっとたくさんの企業方にお声がけして、大館の企業を若い皆さんに知ってもらうことも大事なかなと感じました。</p>
生涯学習課長	<p>新たに6社ほどの企業に訪問しながら協賛のお願いにあがっているのですが、その時には、企業さんから言われたのは、市内にいる学生に対してだけではなくて実際にその企業で就業されている方もいてそういった社員に向けたメッセージだとお考えの企業さんもいらしたので、さまざまな形での協力のいただき方があるのだと思いましたので、今後も考えていきたいと思えます。</p> <p>教育委員の皆様にもご協力いただきまして、ありがとうございます。</p>
委員	<p>20歳を祝う会について、時間があったのでその後の抽選会までご一緒させていただきました。</p> <p>ニュースを見ると、まだまだ荒れた成人式というのを拝見するのですが、抑えが外れた雰囲気の中でも「整然と」という言葉が適切かは分かりませんが、抽選会を企画してくれたその実行委員の仲間たちにも感謝しながら、その会を楽しむという雰囲気があって、本当に皆さんが頼もしいなと思いました。</p> <p>司会を務めたお二人から実行委員の方々、そして当選して上がった人たちが夢を語って、本当に心が和む抽選会だったと思います。来年以降もぜひこのように続けていただければと思います。よろしく願いいたします。</p>
教育長	<p>昨年度ももちろんそうだったのですが、若者たちの聞く姿勢とそれからやはり反応力が非常に高いです。仲間の挨拶に非常に素敵な拍手をしていた</p>

	<p>り、マナーもいいです。暑い日だったのですが、いつもはパタパタとうちわであおいでいる若者がいたのですが、1人もいませんでした。本当に未来大館市民として、本当に頼もしい姿だなと感じました。ありがとうございました。</p> <p>ほかによろしいですか。では、報告を終わります。次に議事に入ります。</p>
各課長	<p>(「協議第12号大館市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例案」「協議第13号令和5年度大館市一般会計補正予算(第7号)案」を資料により説明)</p>
教育長	<p>ご意見、ご質問はございませんか。なければ、承認とさせていただきます。</p> <p>次に、6の「その他」に入ります。</p>
教育監	<p>(「大館ふるさとキャリア教育作品コンクールについて」を口頭説明)</p>
教育長	<p>教育委員の皆さまには、審査等でご難儀をおかけしておりますが、こういうことをやっているのだとかこのような作品になっているのだとか、私自身も見ていて非常に学びになります。</p>
委員	<p>審査をさせていただいたことがあるんですが、子どもたちの感性が非常に高いです。いろいろな作品が出てきています。何とかこれを報道に取り上げていただいて、受賞した作品を発表させていただく機会があってもいいのかなという気がします。そのような形で、子どもたちにも張り合いが出てくるし、キャリア教育とは何かということを知るきっかけにもなるのかなという気がするのです。</p> <p>見方が、大人とは全然違う観点から見ている、子どもの感性通してみたらこんなこともできるんだよという答えが出てくるんですね、作品の中には、ですから、何かしらの形で市民の方へ向けて発表できる機会があるといいのかなという気がしますので、いろいろご難儀かけるのですが、その辺も含めてご検討いただければなと思っています。よろしく願いいたします。</p>
教育長	<p>そうですね。作品を市民の方々に広くお知らせしたい。だから、一つは広報という点はあると思いますし、地元紙でしょうね。それぐらいの価値はあると思います。</p>
教育研究所長	<p>(「全国学力学習状況 調査結果公表について」を口頭説明)</p>
委員	<p>最後のところの「普段の生活の中で幸せと感じる事があるか」という質問に93パーセントの小学生、86パーセントの中学生が「ある」と回答していて、ほかの市町村がどうなのかも考えますが、大変素晴らしいことだなと</p>

<p>教育長</p>	<p>思います。</p> <p>子どもたちには、幸せな気持ちになれるということを実感するようなことがあるということですね。これにしっかりと答えられるということが大館の子どもたちならではのことだと思って、そのデータを聞いて、嬉しいことだなと思いました。</p> <p>これは、新しく入ってきた項目で、ご承知とは思いますが、OECDで調査している項目の中にも同じものがある、「自己肯定感とする精神的幸福度」という項目なのですが、日本の子どもたちが38か国の中でほとんど最下位なのがこの数値なのです。そういう意味では、そこをちゃんと改善しなければならないという意図での質問・調査だったと思うのですが、大館の子どもたちは極めて高いという結果で、非常に私としても嬉しい数字です。</p> <p>自己肯定感と幸福度というのは、当然リンクしてきます。自己肯定感が高いので、幸福を感じるセンサーが働いていくという。皆さまはどうでしょうか。</p> <p>本当に、ふるさとキャリア教育とともに大館の教育は何を目指しているかということに密接に関われる質問項目だなと思っています。</p> <p>この2つともう1つは、社会的貢献意識です。社会への貢献意識、これが高いというのが大館の特色であります。</p>
<p>委員</p>	<p>やはり、92.3パーセント、85.6パーセントと非常に高い数字で素晴らしいなと思っています。具体的にどんなことを幸せだなと感じているのかなというそれも知りたいなと思ったところです。</p> <p>誰ひとり置き去りにしないという大館市の視点からいけば、その1割ちょっとの子どもたちは「そうではない」ということなのですね。この数字だけでなく、やはりそういう子どもたちにも視点を当てて、子どもたちに関わっていただけたらなと改めて思ったところです。</p>
<p>教育長</p>	<p>まさにそのご指摘は正しいと思います。本当にこのところに目を向けて初めて「大館の教育」だと思います。ありがとうございます。</p>
<p>委員</p>	<p>自分の子たちをみても、それから自分の子の周りの子たちをみても、幸せというところに〇をしそうだなというのを、学校行って帰ってきて話を聞いているとすごく感じます。本当にありがたいことだと思います。</p> <p>それで、あえて聞きたいのですが、先ほどのご説明で、英語について数値としてあまり芳しくないというお話を伺いました。やはり、その集団の中で一定数の子は英語の学力に関して、あるところで、ふるいにかげられる、英語の学力がないと、次に進めない子が出てくると思うのですが、そういう子たちのことも考えて、この学力をこれから上げていこうかなということに関して、研究所で何か考えていらっしゃるがあればお伺いしたいと思うのですが、英語に限らずでもいいです。お願いします。</p>

教育研究所長	<p>小学校英語教育推進委員会という委員会がありまして、そこに小学校の先生だけではなく中学校の英語教員も所属しておりますので、第3回の委員会のときに問題を持ち寄りながら、今後どうしていけばいいかなというところの話し合いができればいいかなと思っているところです。</p> <p>アンケートの中でも、授業の中では英語に浸る機会はあるが、一步社会に出たときに海外の人とあるいは英語と触れ合う機会が少ないというのが、都会と違うということなのかなと感じているところです。</p>
委員	<p>2千何百分の1のうちの小学校6年生が、5年生までは英語好きだったのですが6年生のときから嫌いになったのです。「書き」が出てきたところで、好きだから学力が上がるわけではないのですが、そのギャップについて、いずれ「書く」ということが出てきてそのストレスに立ち向かわないといけないので、そういうところかなとみえました。外国語の「話す」「読む」というのが3年生頃からゲーム感覚で楽しくできているのですが、そこに「書く」というのが来た時点で、「うわーっ」となってしまうのがうちの子を含めて出てきているのではないかなと思いました。そういうところもよろしくお願いします。</p>
委員	<p>7月7日の公開授業、小学校と中学校の両方を拝見させてもらったのですが、中学校の授業はいい授業だったなと思った反面、小学校についてはやはりいろいろ難しい問題をはらんでいるなということを感じました。</p> <p>小学生にどうやったら違う言語に対して興味を持たせるかというのがやはりすごく難しいところだと思うのです。一生懸命取り組んでいらっしゃると思うのですが、どういう工夫が一番いいのか、皆さんおそらくいろいろな方法を暗中模索の中でやっているのが、今の英語の授業かなと思いました。</p> <p>そういった中で、おそらくトライアンドエラーでさまざまな形がこれから見えてくるのでしょうか、そのような中で、どうやったら大館の子たちに一番合うのかなというようなことをこれから一生懸命知恵を絞って考えて考え抜いて、トライアンドエラーをどんどん繰り返していく必要があるのかなという気がします。</p> <p>短期的にこれがどうのこうのという問題にしないで、少し長い目でみてやっていただいた方が今後のためになるのかなという気がしますので、あまり焦らずにゆっくりと、地に足のついた形での言語活動といえますか、そういうことをしっかりと、子どもと学びながらでも結構ですので、やっていく必要があるのかなという感想を持った次第です。いろいろ大変かと思いますが、一緒に勉強してきたいなと思っています。</p>
教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>新聞等でこの問題についてはいろいろ書かれておりますし、実際に小学校の英語が始まって、国が何を狙っているのか方針や提唱しているものと今回の学力テスト問題との相関があるのかとか、それから、全部ではなかったのですが一部抽出した形で「しゃべる」ということをやりまして、その正答</p>

	<p>率は12パーセントでしたので、非常に悪くて、日本語でやってもおそらく50パーセントぐらいしか答えられないような問題を英語でやったのです。しかも、1人ひとりやらなければならない形でものすごい時間もかかっていて、本当に今の形が実態としての数値に近いものが出ているのかどうかさえもわからない状況なのです。ですから今、委員がおっしゃったように、学力テストの点数を高めるためとか成績順位を上げるためとかではなくて、ここはやはり、1つそういうところから一歩引いて、未来大館市民に英語としての力を、何が必要なのか、どういう力をつけてあげたいのかといった発想から進めていかなければならないのではないかなと私も思っている状況であります。</p> <p>委員の皆さまからその他ございませんか。</p>
委員	<p>夏休みが終わって明後日から2学期が始まるころですが、ただ一方で、新型コロナウイルス感染症が大流行しているようでした。</p> <p>昨日行った小学校では校長先生と教頭先生がどちらもお休みされているというところもありまして、しょうがないことなのですが、2学期始まってまた更に、とならないかと心配しているところです。夏休み中で教育委員会への感染の状況など報告は、どうなっているのでしょうか。</p>
教育監	<p>5類になってからは、報告は不要となっています。私たちの把握の仕方としては、県に報告されている「感染症システム」というものがありますので、それを私たちがWebを通して数字を見て、この学校はちょっと出ているなというように判断をしていくのですけれども、その「感染症システム」への報告の前提が（欠席）としているので、夏休み中は（欠席）も（出席）も何もないので、一切ゼロのままずっといくということで、夏休み中の状況としては、教育委員会としては時々学校に電話したときに聞く程度で、報告は上がってきていないです。</p>
委員	<p>昨日、ある小児科の先生とも話したのですが、2学期始まってすぐ学級閉鎖といったレベルの広がり方ではないのかなと。その先生の感じ方ですが、そこまで広がっているようなので、法律で5類と決まっているからしょうがないと思いますが、また、学級閉鎖等になってしまわないか心配な状況に見えました。</p>
教育監	<p>私も市内の状況が良くないということを知ったので、今週の月曜日に「夏季休業中なので、もしかすると、学校に連絡する必要はないと思っている保護者もいるかもしれないので、学校が始まったら、子どもが来てないぞということになりかねないので、情報収集は早めにしておいた方がいいですよ」という連絡は各校長にしています。その上で、今このぐらい休んでいるので心配ですという報告はどこからも上がってきていないので、まず今のところはいきなり学級閉鎖という状況にはならないのではないかなと予想はしていて、いくつかの学校に聞いてみましたが、規模の大きい中学校では2桁出て</p>

	<p>いる学校もありましたが、それ以外の学校は、「継続的にポツポツと続いている感じですか」という回答でした。</p>
委員	<p>よく分かりました。</p>
教育長	<p>基本的には、対応としてはインフルエンザと同様ですね。 あと心配なのは、熱中症のこともあるので、そちらもお願いします。</p>
教育監	<p>最近私たちも、もはや尋常でないこの暑さに人間の生活のレベルではないのではないのかなと思っていて、全国的に見ても小中学生が部活動の帰りや学校で体育をやった後に亡くなっているというケースもあったので、お盆前に、改めて、いわゆる暑さ指数に基づいて適正に対応することという国の基準と同じではありませんが、それを通知で出しました。</p> <p>その後の各小中学校の動きを見ていると、中学校は現在の部活をやっているの、暑さに合わせて部活を午前中に、例えば9時までに終わるようにしたりとか、あるいは一切なしにしている学校が出てきたり、それからプールでの活動を制限したりだとか、暑さの状況に合わせてきちっとした対応が取れているので、このまま学校が始まって多分学校も暑いでしょうけども、全国に報道されなければいけないような事故に繋がることは今のところないのではないかなと思ってはいます。</p>
委員	<p>うちの子もプールに行きたいのに毎日プールやってくれないとぼやいているぐらい、本当に厳重に対処してくださっているの、暑さ指数が31を超えるとプール中止という基準を明確に持ってくださっているし、中学校も部活動は一昨日からずっと休止にしているの、やりたい子もいるのでしょうありがたいなと思いました。</p>
委員	<p>授業に取り残された感想を一つお話ししたいと思います。</p> <p>8月2日研修会でロイロノートと電子黒板の講習会ということで、先生方と一緒に講習を受けてきましたが、ロイロノートをやっている最中、一番後ろの席で聞いていたのですが、講師の方と先生方はある程度お使いになったことあるかと思うのですが私はあまり使ったことがなくて、取り残されてポツンと教室の中で孤独感を味わってしまって、授業についていけないというのはこういうことなのだと改めて感じてしまいました。</p> <p>誰ひとりとも取り残さないといいますが、取り残されないように自分でリカバリしたと思っております。こういう形でこれからの授業もまた成り立っていくのかなという期待感と、それから希望に満ちた非常に良い研修会ではあったなと感じましたので、夏休み明け、また先生方にはご難儀ご苦労かけると思うのですが、ぜひ有効に活用していただいて、子どもの未来へ向けて、良い手段の活用の方法を探していただければいいなと思った次第であります。本当にありがとうございました。</p>

教育長	はい、ありがとうございます。本当に電子黒板すごい機能ですよ。私もついていけませんでした。
委員	今に関連するかもしれないのですが、8月上旬の校長先生、教頭先生と一緒に合同研修会で、ICTの活用の協議のところに参加させていただいたのですが、各校で若い先生方を中心に非常に効果的な活用をされているというお話を伺って、大変いいなと思ったところです。その中で、出てきた話題がやはり早く先生方のタブレットが欲しいという話で、確か私の記憶によると前々回ぐらいの会議で、教職員の数よりタブレットの数が全部合わせればカバーできると話を聞いたような気がするのですが、先生方への配付状況、その辺についてどのようになっているか教えていただきたいです。
学校教育課長	前に委員からのご質問があって資料をお出ししながらご説明したところですが、令和2年度に一斉に導入した数と平成30、31年度に導入した数をお示ししながら、現在の児童生徒数と教頭先生以下使用するであろう教職員の数を比較してお示しして、それでいくと対応できているのではないかと思いますのですが、ただ、各学校にそれぞれ予備の台数があって、それがうまく調整できていなくて、学校の先生に当たらないパターンもあるし、ただ、学校の方でタブレットを電子黒板用に使っていたりとか、別の使い方もしているのか、もう少し詳しく学校の調査というか実際にどこの学校でどれぐらいの数が、先生が望んでいるのか、あるいは1学年1タブレットでもいいのか、それとも、教科別になれば先生として複数台タブレットが必要になるというそういう要望もあったりしていて、正確に今現在、どこの学校で実際に何台足りないのか調査中で、すぐ把握できなくて申し訳ないです。
委員	同世代の先生とか若い先生と話していると、自分で買ってきたスマートフォンのように、端末を使って授業をしたいそうです。そう考えると、自分が使っているスマートフォンは、貸し借りしないですよ。というふうに、自分の使うタブレットが、自分専用のカスタマイズされていて、それで初めて教師用のタブレットになるのではないかなという話を先生方からされました。理想論だとは思いますが。
委員	<p>単純に、生徒数が減って余っている学校から台数が足りない学校へと市の中で融通したりできないものかなと。単純に先生の数をちゃんと台数が上回っているのであれば、そこら辺をうまく調整して、まずはみんなに渡るようにできないのかなという単純なお願いなのです。</p> <p>その協議の中で、ある学校では、教員全員に渡っているよと。ある学校では、すごい大規模校なのに教師用は学校に1台2台しかない。5・6人の会での話ですが、かなりの温度差がありました。</p>
教育長	非常に単純な話。毎年100人以上子どもたちの数が減っているの、ということは100台以上毎年そういうものが出てくるわけで、それを教師に

<p>学校教育課長</p> <p>委員</p> <p>教育長</p> <p>教育総務課長</p> <p>教育長</p>	<p>ということは、数値的には全然不可能な話ではないわけですので、それがやっぱり実態としてそうになってないということについては、システムが悪いということなのです。とすれば、それは教育委員会の方で整正しなければならない問題だと思います。</p> <p>だから、各学校に預けっぱなしで任せっぱなしだと、当然そういうふうな学校も出てくるわけですし、そういう状態が生まれてくるっていうのが実態なんだと思います。</p> <p>2月、3月時点で卒業生や新入学生の人数はある程度わかっていますので、そのときに、学校間で調整を図って分配をしていて、入学式が終わってすぐ使えるような状況になるように、春休み期間中にも調整を図ってやっているところです。</p> <p>年度始まってからも、転出入、あとは市内での転校などがあった場合はそれぞれ台数を調整し、学校が違えば新しくセットアップしなければならないのですべてやるようにし、ある程度平準化というか数を合わせるような形でやっておりますので、そこがうまくいってないとすれば、改めて学校に調査をかけ、実際にどういう状況なのかを含めて確認して、今後は是正していきたいと考えております。</p> <p>お忙しいところ何とかよろしくお願いします。</p> <p>ほかにございませんか。よろしいですか。</p> <p>(「来月の開催日程」について)</p> <p>委員の皆さまからご発言ございませんか。 それでは、以上を持ちまして、教育委員会会議を終了いたします。</p>
	<p>会議終了時刻 午後4時40分</p>